

# 仕事体験し魅力実感

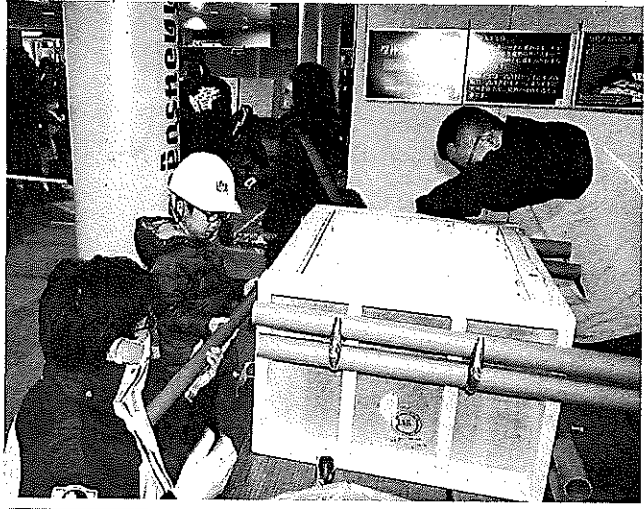
札幌で建設産業ふれあい展

道庁札幌市が主催する建設産業ふれあい展が12、13の両日、札幌駅前通地下歩行空間で開催された。各種団体などが仕事体験やパネル展、VR(仮想現実)体験などを催し、道民らに建設業の役割や魅力を伝えた。

建設産業のイメージアップを図り、身近に感じてもらおうと、担当者の確保につながるよう2016年から毎年開催しており、今回で4回目。

北海道建設業協会が協賛し、札幌建設業協会や北海道型粋工事業協同組合、北海道測量設計業協会など12団体と道、札幌

北海道左官業組合連合会や北海道型粋工事業協同組合、日本建築大工技手伝ってもらいながら型枠づくりに挑戦した。



能士会札幌支部は体験型のブースを設け、子どもたちが壁塗りや型枠の設置、椅子作りに挑戦。北海道建設工技建協同組合と北海道鉄筋業協同組合も足場の組み立て、鉄筋の切断と結束の体験コーナーを設置した。

札幌建協は、VRコーナーを出展した。ヘッドセットを着け、重機の運転や高所での橋梁点検などを体験した女性は驚きの声を上げていた。北海道測量設計業協会は測量体験、北海道造園緑化建設業協会は「シノン」重機を使った造園体験を実施。

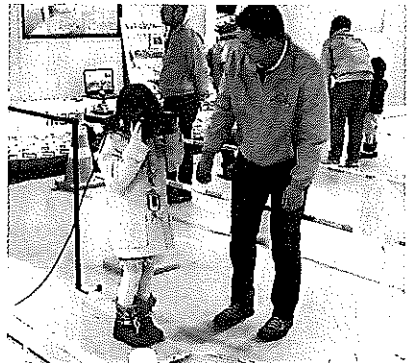
## ものづくりなど楽しんで

道および札幌市主催、北海道建設業協会協賛の「建設産業ふれあい展」が12、13の両日、札幌駅前通地下歩行空間で開催された。地道および札幌市主催、北海道建設業協会協賛の「建設産業ふれあい展」が12、13の両日、札幌駅前通地下歩行空間で開催された。地道および札幌市主催、北海道建設業協会協賛の「建設産業ふれあい展」が12、13の両日、札幌駅前通地下歩行空間で開催された。

道および札幌市主催、北海道建設業協会協賛の「建設産業ふれあい展」が12、13の両日、札幌駅前通地下歩行空間で開催された。地道および札幌市主催、北海道建設業協会協賛の「建設産業ふれあい展」が12、13の両日、札幌駅前通地下歩行空間で開催された。

## VR技術で3D映像制作

札幌建設業協会



の魅力をPRした。

ブースの目玉として設けたVR体験のコーナーでは、高層ビル建築現場の狭小な足場を再現。参加した市民らは、臨場感あふれる映像に驚きながらも、建設業の仕事に関心を寄せていた。

ほかにも、スマートフォンでAR(拡張現実)を活用

札幌建設業協会が出展した「建設現場のバーチャルリアリティ体験」のブースでは、最新のVR(仮想現実)技術で制作した3D映像などを用いて、建設業

北海道通信  
31.1.15

し、構造物の完成イメージを現地スケールで3D表示するものや、距離を検知するセンサーKINETIC(キネクト)を応用した砂遊び等のコーナーを設置した。

担い手不足や高齢化など、建設産業の課題解消の一助になることを期待した。

にわたることを強調した一方で、「こうした重要な役割が一般の人には知られていないので、このあたり、各ブースのイベ

示した。各団体が出展することもあり、2日間を延べ1万6000人が来場するなど、多くの親子連れでにぎわった。

## 建設産業ふれあい展



対応、冬期間の除排雪など、建設産業が果たす役割が多岐 大人まで幅広く体験してもらった。

## 18のブースで仕事紹介等様々な催し